



秋の花粉症 要注意!

昨日テレビの報道で、秋の花粉症がピークだと伝えていました。今シーズンは秋花粉、特にブタクサ花粉が大量に飛散しているそうです。実は、花粉症は春だけのものではありません。花粉症と聞くとスギ花粉症をイメージしがちですが、日本だけでも現在60種類以上の花粉症が報告されており、一年を通して花粉症になる可能性があります。花粉症の症状に悩まされる人が多くなるのは、やはり春、そして秋です。花粉症の人のうち、約15%が秋に症状を訴えています。春の代表格のスギやヒノキの樹木の花粉は遠くまで飛散しますが、秋の花粉症の原因となる花粉は、ブタクサ、ヨモギ、カモガヤ、ススキ、オオアワガエリなどです。その中心となるブタクサの花粉ですが、飛距離はせいぜい数メートルです。しかし、ごくごく身近なところにあるため、うっかり近づいてしまうと花粉を浴びてしまうのです。そして、秋花粉の飛散量が現在ピークを迎え、病院を受診する人が増えているそうです。その症状は、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみ、目の充血、皮膚のかゆみなどです。「風邪!?それともインフルエンザ!?'」と思って病院を受診すると、花粉症と診断されるケースが多いということです。これらの症状は、花粉を吸い込むことで起こります。ブタクサの花粉は午前中に飛散します。しかも花粉の粒子が小さく、身体の奥深くまで侵入することがあり、気管支にまで入ってくると喘息のような症状を起こすこともあるので注意が必要です。医師によると「秋の花粉症に対しても、マスクや花粉症用メガネの着用、花粉の付着しにくい素材の服を着る、帰宅時には玄関前で花粉を払う、帰宅後の洗顔やうがい、掃除の徹底、空気清浄機の利用などの花粉症対策は有効です。」ということでした。



ブタクサ



ヨモギ



カモガヤ

地球環境センサーを救え!

夏の北極海の氷が早ければ2030年代に溶けてなくなるとのシミュレーション結果を韓国などの国際研究チームがまとめました。世界目標である、産業革命前からの世界気温の上昇を1.5度に抑えたとしても氷がなくなる可能性があるといいます。北極海の氷がなくなると地球全体の温暖化も加速するといわれ、海洋環境が変化することで北極圏内外の生態系にも影響が及びます。北極圏に領土を持つ、アメリカやロシアなどの8か国で組織する「北極評議会」の報告書によると、1971年から2019年に3.1度上昇し、地球全体に比べても約3倍の速さで温暖化が進んでいるそうです。研究チームは、将来の北極海の氷がどうなるのかシミュレーションをおこなった結果、氷の減少は主に温室効果ガスの排出量増加に影響を受けており、早ければ2030年代の9月には全ての氷が溶けてなくなると予測しています。

温暖化の影響が表れやすい北極のことを「地球環境センサー」と呼ぶ研究者もいます。世界で協力して、この地球環境センサーが失われないようにしなければなりません。

